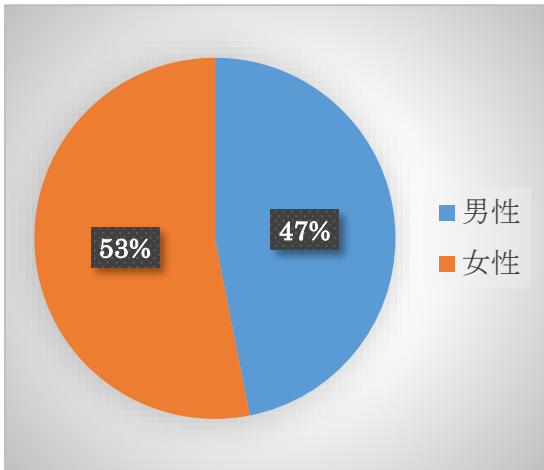


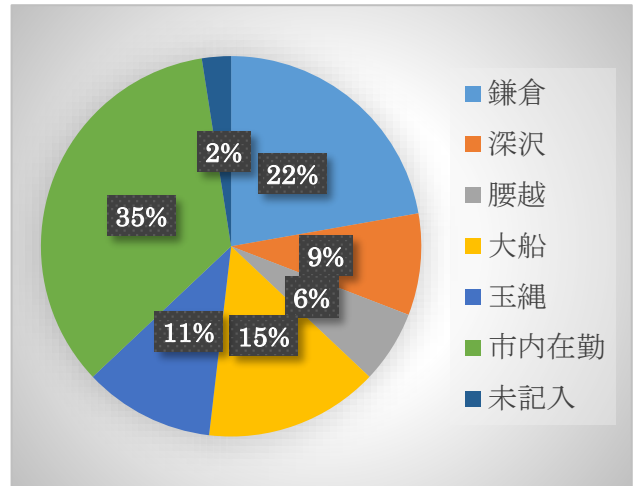
## 市民アンケート結果（抜粋）

回答人数：81名

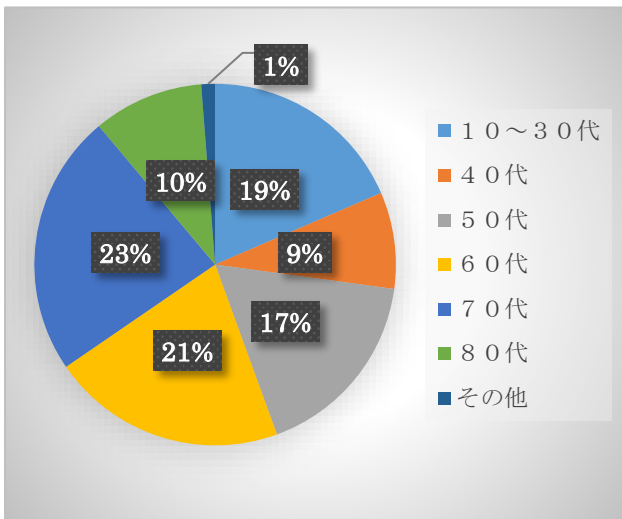
### 【性別】



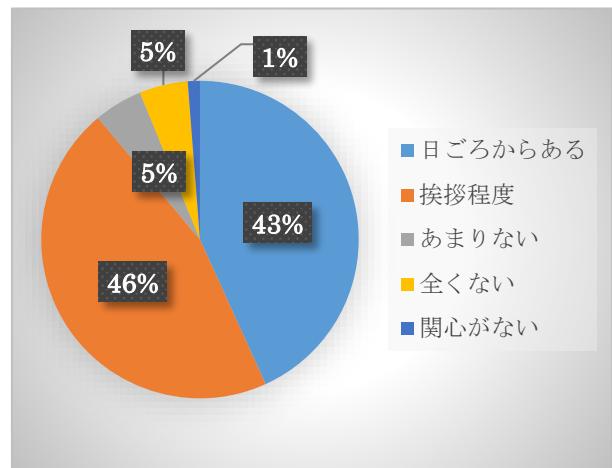
### 【地区】



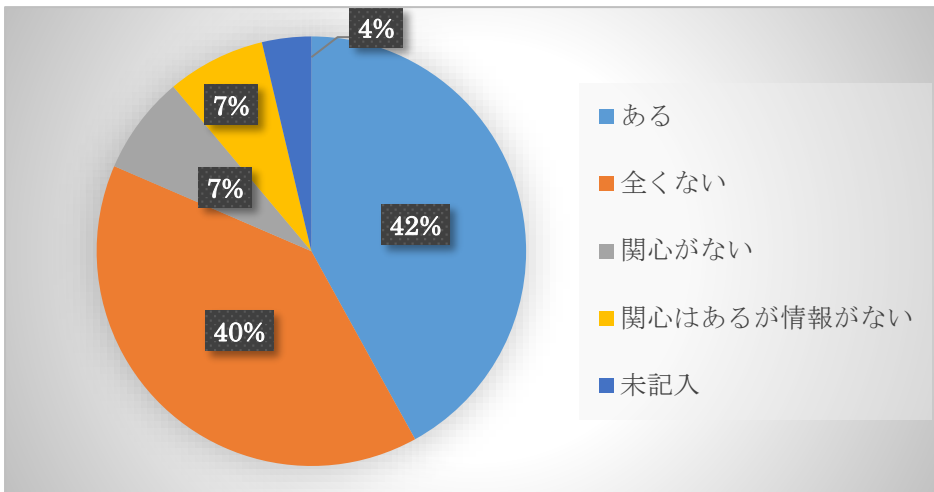
### 【年代】



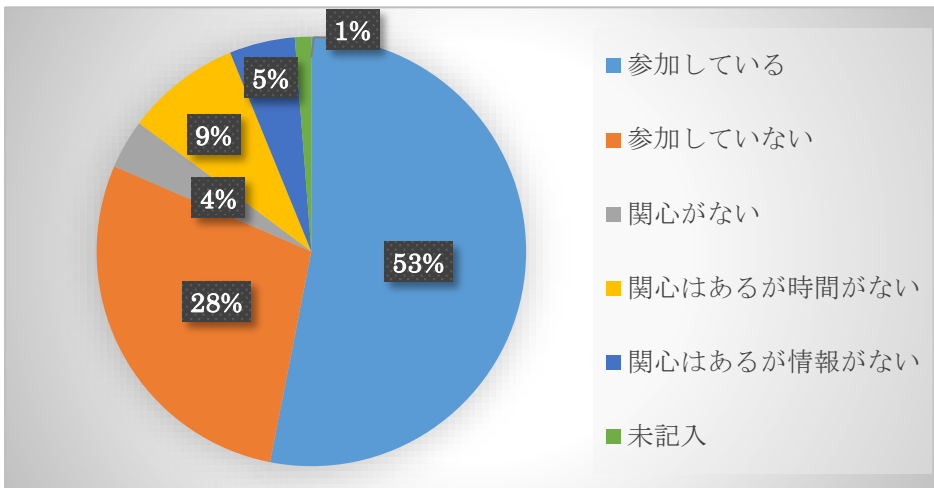
### 【隣近所とお付き合い】



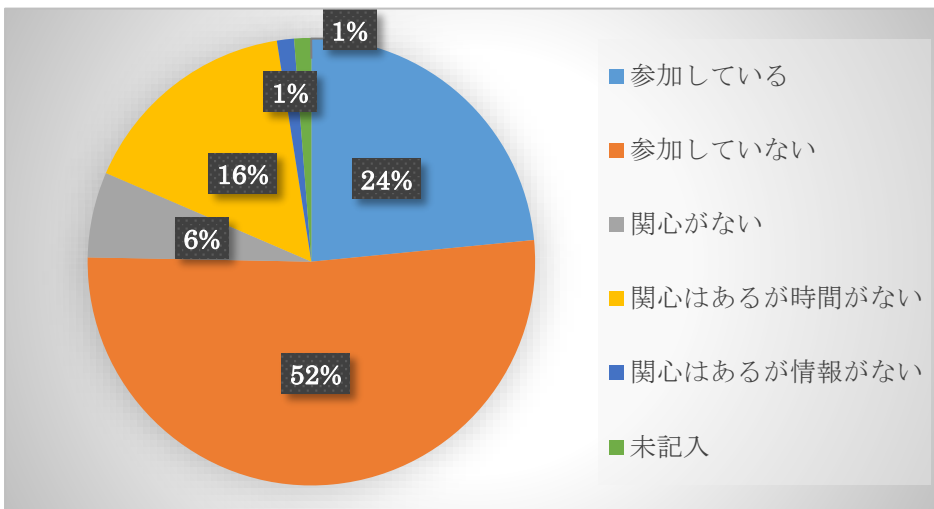
### 【近所に気にかかる家はありますか】



### 【自治会町内会活動に参加していますか】



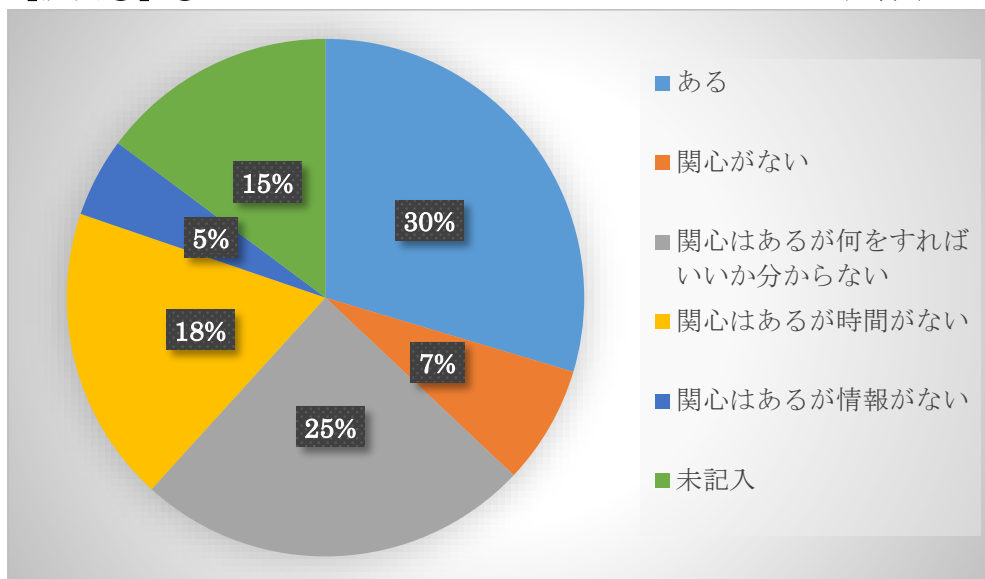
### 【地域活動（ボランティア活動、NPO活動など）に参加していますか】



### 【設問⑧】 誰もが住みやすいまちとはどのようなまちを思われますか

- ・地域の関わりや行政との関わりをもっと簡単にできる環境作り
- ・ご近所で助け合える（必要な時）。おせっかいができる関係性がある
- ・住んでいる地域の情報（市政ほかお店なども含む）をきける相手が身近にいる。でも一方的でなく、お互い様の関係での助けを求められる
- ・困っている人がいる時に、誰かに気軽に相談ができるまち。インフラがバリアフリー化されているまち。地域の情報、災害の情報がしっかりと共有できるまち
- ・地域活動が重荷にならないような仕組みが整っているまち
- ・近所の人たちが声をかけ合える。顔を合わせれば必ず挨拶しあう。最低限の日用品や食材料を徒歩5～10分圏内で調達できる。夜間道路の暗がりが少ない
- ・けがや病気により障がいや生活のしにくさを感じるようになっても、住みなれた地域・自宅で過ごすことができるという安心感を持てるまち
- ・隣組を中心に、町内に住む方々と親しく付き合っていけるまちが住みやすいまちと思う
- ・高齢者や障害者、認知症の方々に配慮したまち。例えば段差をなくすなど環境面と、ハンデといわれるできないことをそのまま受け入れる心のソフト面
- ・各々が穏やかに暮らしていて、災害時や緊急性があるときは助け合えるまち。過干渉であっては良くないが、助け合うべきときには助け合えるような関係が望ましいと思った
- ・住民が気軽に立ち寄れる公園・あそび場等わざわざ足をのばさないと行けない公園ではなく、生活圏域で子どもから高齢者、妊産婦も行きやすい場所に公園等があるまち
- ・あそびばがいっぱいあるまちがいい（5歳）

### 【設問⑨】 ⑧で思われたまちづくりのためにあなたは力を発揮する気持ちはありますか



**【設問⑩】 つながりささえあうまちを目指して何が必要になるか自由に記載してください**

- ・赤ちゃんから老人までと一緒に気軽に集える、安心した場所
- ・寄り合い場所。町の中に気軽にお茶出来る場所がほしい
- ・街角あたり点々にイスがあり、ちょっと話をしたり歩いてつかれたりしたときの腰を下ろす所があると良いかも
- ・地域の情報をわかりやすく整理し、周知していくこと
- ・強制でなく、自分のできることを地域に提供していく。ボランティアとかでなく、住民同士の立場で活動できれば、しばらく活動できます。まずは、自身の心身にゆとりがないと。”ゆとり”がつながりささえにつながる
- ・先ず自分の出来る事を知ってもらい、その考えを互いに認め合い、相互に尊重し合う事。時間がかかるし単純ではないが、互いに知り知ってもらう事が第一。決して閉鎖的にならない事。自信を持って何かを信じて生きる事
- ・行政が主導するだけでなく、住民ひとりひとりが身のまわりの課題に対して、自分ごととしてとりくめるまち
- ・そもそも住民が「つながり」を求めているのか。誰か「つながりささえあうまち」を目指しているのか。誰が必要としているのか。大人になってから、そのことを考えるのはおそすぎる。子ども頃から、その意識をもってもらうための「福祉教育」や幅広い住民層にその意識をもってもらうための「住民の福祉教育」が必要と思われる。そのためには、住民の意識改革と共に、行政の縦割りも見直す必要があると共に、行政職員一人一人が「かまくらささえあい福祉プラン」で鎌倉市がどうあるべきかも考えて頂きたい
- ・ともだちになろうっていう（5歳）